

2020年5月14日

「緊急！大学生・院生向けアンケート」院生結果報告

全国大学生生活協同組合連合会
広報調査部

1. はじめに

新型コロナウイルスへの対応で日本中が混乱する中、大学生の生活も大きく変容しています。私たち大学生協は、今後の大学生活のありようや大学生協として取り組むべきテーマを具体化するために、「緊急！大学生・院生アンケート」に取り組み、1,500名を超える大学院生からご協力いただきました。アンケート結果を公表することにより、この状況下にある院生への理解を深めていただき、今後の大学生活の向上につながることを願っています。

2. アンケートの概要

このアンケートは、全国大学生協連、2つの大学生協事業連合、各大学生協のホームページや、生協利用者へ拡散を呼びかけて募集したWebアンケートです。調査対象は全国の大学生、大学院生で、調査期間は4/20(月)～4/30(木)です。

- ・調査方法 Web調査(大学生協ホームページや生協利用者へ拡散をよびかけて回答を募集)
- ・調査対象 全国の大学生、大学院生
- ・調査期間 4/20(月)～4/30(木)
- ・回収数 院生 1,702 回答 ※大学生(学部生)は別途報告済
- ・アンケート結果についての注意点

※匿名性による学生以外の回答や複数回答、不適当な回答などの可能性があります。

※「学生の消費生活に関する実態調査」や「保護者に聞く新入生調査」の調査方法(全国大学生協連会員生協の組合員から無作為に調査対象を抽出)と異なり、回答数の多い大学や学年があるなど、アンケート結果の代表性は明らかにできません。

3. 院生向けアンケートの自由記入欄に寄せられた声

(1) 「アルバイト」ができず収入減少による経済的不安が、大学生より多く寄せられています。

アルバイト収入に見通しで「大きく減少する」「減少する」と50%以上の院生が回答しています。※大学生回答では約42%

この先の経済的不安について、「非常に不安である」「不安である」と70%近くの院生が回答しています。※大学生回答では約66%

【自由記入欄より】

- 4月からは大学院のためにあまりアルバイトは出来ないと思い、3月中に例年以上に稼いで貯蓄しておく予定であったが、シフトが削られ、短縮営業になったため例年の3分の1以下になってしまった。社員ではないことや契約内容の都合上、有給休暇は存在せず、休業補償も出来ないと言われてしまった。フリーター向けの都からの2年間の無利子での貸付を勧められたが、2年間は丸々大学院の期間と重なるため返却出来る目処もなく、制度を利用するのにもリスクがあるため踏みとどまっている状況。4月の収入は0になってしまい、今後の再開の目処も立たないため経済面での不安がかなり大きい。両親との関係も良好ではないため、今まで以上の支援を頼むことは難しい。親の世帯収入としては低くないため奨学金申請も過去、通らなかったのがアルバイトでの収入がない、3月に貯蓄を作ることが出来なかったのはとても辛い。(私立大M1・一人暮らし)

- ▶ アルバイトの激減により収入が絶たれる学生が自分も含めて多く、実家が首都圏にあるため帰省することもできず経済的に苦しい。現在パソコンが故障しており修理費が高くアルバイトがない今自分で払うのが極めて厳しい状況にあるため課題やオンライン授業に支障が出ているが大学の図書館が使用できず、授業参加が困難。(国立大 M2・一人暮らし)
- ▶ バイト代が足りない。学費は払ってもらっているが、貸与型奨学金によるものであり、学費以外の自分のお金は自分で稼がないと迷惑がかかる。派遣でも日雇いでも探してみたが、怪しそうなところしかない。院生は学内バイトに頼るところもあり(院生になって初めてできるバイトが多い)、それもなければ毎月数万ほどは収入が減ってしまう。(私立大 M1・自宅生)
- ▶ 在宅期間が長くなり研究が思うように進まなくなってきました。またアルバイトも出来なくなり収入はゼロです。日本学生支援機構の給付型奨学金は大学院生は対象外です。民間の奨学金にたびたび出していますが、募集人数が少なく、採用されるかどうか分かりません。研究も進まず、これ以上の金銭的に困難になってきたら退学若しくは休学をせざるを得ないと思っています。(私立大 M2・一人暮らし)
- ▶ 私が現在抱えている不安の中で一番の不安は経済的不安です。今年の3月末に父が無職になりました。時期がギリギリだったこともあって授業料免除申請の基準を満たしているかもよく知らずに過ごしていたので授業料は少なくとも前期分は納入することになっています。ですが、こういった状況なので父の再就職先は見当たらない。母のパート先や私のバイト先はストップ、といった状況です。収入といえば JASSO から貸与されている奨学金くらい。生活費は家庭の貯金を切り崩して賄っています。必要最低限の教材費等は奨学金を活用しながらどうにか賄っていますが、借金であることや、自分が修了できるかの不安から我慢していることもあります。この状況が続くと将来への不安と共に、消費活動が制限されることは間違いないように思います。(国立大 M1・自宅生)
- ▶ 大学院での授業もとまり終えており、残り研究に専念するだけだが、それができていないのに、授業料がかかり、困っています。親の収入は飲食店などではないので、現在はまだ大丈夫ですが、三ヶ月後以降に響いてくると聞いています。また私自身もアルバイトでの収入が激減しこれからどうなるのかが不安です。(国立大 M2・一人暮らし)
- ▶ 両親の経済的援助が期待できず、自身でのアルバイトも雇用がなく取り組めず、経済的な不安が大きい。化学分野の専攻で、時間のかかる実験があるが研究室活動の停止を要請されているため結果が出せず、授業や修論が不安である。また、奨学金減免・免除のため、積極的に学会等に参加したかったが、実験自体できないため手元にデータも得られず、学会も中止や延期になっているため、奨学金の返済に不安がある。(国立大 M2・一人暮らし)
- ▶ 実家から2時間かけて学校に通っており、アルバイトも東京でやっているため、現在収入がゼロであり、今後の生活に不安を感じております。学校に行けない現在でも学費を払い続けることに違和感を感じます。研究が進み論文が完成するかどうかはわからず、はたして卒業できるのかもわかりません。本来は博士課程に進学を希望していたのですが、将来が不安になり遅まきながら就職活動も少しずつ始めることになりました。今学生の補償が少なすぎると思うので希望が見えません。制度ができるなり、何か学生だけの補償ができればまだ安心して家での生活も頑張れるような気がします。(国立大 M2・自宅生)
- ▶ 家にインターネット環境がなく、スマホのテザリングだけでは限界がある。大学のモバイル Wi-Fi 貸し出しは大学院生が含まれないことや、アルバイト収入がなくなり生

活ができなくなり研究どころではなくなっている。(国立大 M2・自宅生)

(2) 大学施設が使用できない中、学費に対する不満の声が多く寄せられています。

【自由記入欄より】

- 私自身は経済的不安が少ない、文献での研究を主に計画している院生なのでそこまで不安はないが、今後インタビュー調査を行いたい場合それができない可能性があり不安である。2年以内で卒業できるのかどうか。流石に今回の感染症の影響で院生活を3年に伸ばすことはできない。また、オンライン授業の形態が先生によって様々でメールでの開講という講義もある。これは講義になるのかどうか疑問である。図書館を含めほぼ全ての大学施設が使用できず、授業のクオリティも落ちている、また経済的不安が増えている学生が大勢いる中でこれまでと同額学費を払うのは難しいと感じているため、減額を求めたい。(国立大 M1・一人暮らし)
- 図書館も自習室も生協も閉鎖で大学に全く行けず、オンライン授業しか享受できないのに学費を全額払うのは納得がいかない。仮に大学で試験ができず、単位認定を在宅試験やレポート評価でする場合、自宅に多数の参考書を備えておいた者勝ちになり、その財源がある人が有利になるため、それで評価されるのは納得できない。(国立大 M2・一人暮らし)
- 全国的に授業料になんらかの改正が入ってほしいと考えています。僕たちの授業料は、大学の設備や施設の利用、有識者や友人との知見の交換や交流を深めること、その全てに対して支払っているものです。昨今のメディア授業や学内立入禁止などの状況や、アルバイトができなかったり経済的にコロナの影響を受けている学生が多い中で、授業料だけそのままなのはとても冷たい対応に感じます。(国立大 M1・自宅生)
- コンクールや短期留学の予定も潰れてしまい、休学するべきかと悩んでいる。学校が始まっても、対面で授業ができなくてレッスンなどの実技もオンラインでされるとなると全く意味がなく学べるものも学べないのでとてつもなく不安。行事が潰れたりするのは自分の行動ではどうにもできないので、受験して得たこの院生活の貴重な1年を無駄にしてしまうのではないかという不安。来年修士論文を書いて提出できる気がしない。せつかく勉強しようと進学したのに辛い。そして学費がいつも通り搾取されるのが納得がいかない。不安しがなく、人にも会えず、夜もぐっすり寝られず精神的に限界。(国立大 M1・一人暮らし)
- 研究活動が再開できない状態がいつまで続くか分からないのに、授業料だけ払い続けることに不満を持っている。大学閉鎖が5月以降も続くようであれば休学を検討したい。(国立大 M2・一人暮らし)
- 研究室が全く使えない状況で学費を満額取られることが少し不満。コロナの影響で減収はしていないが毎月12.8万円の奨学金から捻出しているので半額免除でもしてくれたら食費を増やしたりなどできる。学費免除は親の年収が基準より高いのでできない。(しかし家賃、学費、生活費は全て自分で賄っている)(国立大 M2・一人暮らし)
- 大学はオンライン授業だけど院はほとんど授業もないし、はっきり言って施設が使えないとほとんどやりたいことはできないので、学費を全額取られることは納得がいかない。(国立大 M2・一人暮らし)
- 登校禁止やオンライン授業の期間の学費を払い続けることに疑問があります。座学よりも対面での技術や人とのアンサンブルを目的に学校に通っているので、それが行われぬ、もしくはオンラインでの限界あるレッスンなどで通常通りの学費は必要ないと考えます。減額もしくは免除にしたいです。(国立大 M1・一人暮らし)

(3) 自身の研究で困っていることとして、「大学や研究室に行けないため実験ができない」
「図書館が閉館しているため、必要な文献が収集できない」の声が多く寄せられています。

【自由記入欄より】

- 修論に向け文献や参考図書を探す必要があるが、図書館等が利用不可なため必要量の文献を得られない。また、面接調査も視野に入れているが不可能な状況。(私立大 M2・一人暮らし)
- 図書館などに文献を探しにいけない。研究のための展覧会、講演会が中止になった。(国立大 M2・一人暮らし)
- 大学の図書館を含め各種資料館や博物館など、資料にあたるための施設が休館していることで、手に入れられる資料が極端に減っています。また、私は建築設計を学んでおり、実地での見学や調査も研究をする上で極めて重要です。建築を机上に持つてくることはできませんから、自分が赴かなければなりません。しかし外出ができない今、そうした活動の一切がストップしています。(国立大 M2・一人暮らし)
- 調べ物がしたくても、専門的な本が研究室や図書館にしかないため困難であること。(国立大 M1・自宅生)
- 大学のネットワークが使用できず、下宿先のポケット Wi-Fi しかないため通信状態が不安定で長時間利用すると通信制限にかかる恐れがある。(国立大 M1・一人暮らし)
- 研究室のデスクトップの PC が使えないため自前のノート PC を用いているが、スペックの差が大きく研究がやりづらい、または研究ができないことがある。(国立大 M2・一人暮らし)
- 化学専攻なので、たくさん実験をする必要があります。そして、今年 9 月卒業見込みなのに、今のところは学校入り禁止で、自宅待機中毎日論文を読んだり前の研究テーマをまとめたりするしかできません。順調に卒業できるかどうかもわかりません。それは一番困っているところです。(国立大 M2・一人暮らし)
- 研究室内のパソコンを使えないので解析が遅れる。論文をダウンロードしにくい。(公立大 M2・一人暮らし)
- 大学のパソコンでしか動かすことができないシュミレーションソフトなどがあり、大学に入ることができない事で、予定よりも大幅に研究が遅れている。(私立大 M1・自宅生)
- 先生のご厚意により備品を送ってもらって自宅で研究することになりました。ただ、研究の都合上大電力を消費する装置を使うため、電気代の支払いに不安を感じています。(私立大 M1・自宅生)
- 図書館閉館や研究室出入り制限によって、研究に必要な文献が手元になく研究が進められない。また研究室の人と話をする機会が減ったため、研究に関する情報が手に入りにくい。(国立大 M2・自宅生)
- 卒業された先輩の研究を引き継ぐ時間が無く、資料やノウハウが不足している。(国立大 M1・一人暮らし)
- 学会が延期になったこと、図書館を利用できないこと、指導教員とのコミュニケーションが取りにくくなったこと。(国立大 M1・一人暮らし)
- 外部の研究室に進学したがまだ数日間しか行っておらず、メンバーと打ち解けないし、研究内容の勉強も一人では進め辛い。(国立大 M1・自宅生)

(4) 将来や進路に対して、不安が増したと感じている声が寄せられています。
「さらに不安を感じるようになった」と約 40%の院生が回答しています。

※大学生回答では約 39%

「不安を感じるようになった」と約 30%の院生が回答しています。

※大学生回答では約 27%

【自由記入欄より】

- とにかく就職活動が心配です。インターンもいけないとなると企業の雰囲気などがわからず、ミスマッチングが増えてしまい、企業にとっても学生にとっても負担が大きくなるんじゃないかなと思っています。早く収束することを祈っていますが、当面この調子が続くようなので、学校を挙げて就活支援をしていただけることを切に願っています。(国立大 M1・自宅生)
- とにかく収束の目処が立っていないため、いつから研究活動を開始することができるかとても不安。就職活動もコロナの影響が出ると思うので不安。早めに行動するにしても説明会も縮小しているため行動しづらく不安。(公立大 M1・自宅生)
- とにかく留年せずに卒業したいが、長引くと留年も視野にいれなければならない。その場合所属する研究室は今年度で閉められるので最後の 1 年が宙ぶらりんになる恐れがある。内定も辞退しなければならないし、学費も余計にかかってしまう。さらにその場合、奨学金も打ち切られるため生活が困難になるためなんとしても今年度で卒業したいが、現状の拡大状況をみるとどうも未来に期待がもてず不安が募る。(国立大 D3・一人暮らし)
- 一刻も早く就職活動がまともに出来るようになってほしい。中止になる資格試験が多数あり、人生が狂ってしまう。(国立大 M1・自宅生)
- 就職活動が流動的になっている点が不安に感じている。加えて、WEB での面接は正直なところ自分のことも相手のことも出し切れないまま終わることが多い。内定をもらっても、果たして自分に合った会社なのかを見極めることが難しい。一生に関わることなので頭を悩ませている。(国立大 M2・自宅生)
- 就職活動がここまで難しくなるとは思わなかったです。留学生のため、内定を更に取りにくいです。このままだと日本で就職できないと思います。(国立大 M2・一人暮らし)
- 法律学を研究する大学院生 (D3) です。今般のウイルス流行によって、生活が大きく変わってしまいました。研究室・図書館を利用できなくなったことで、研究資料へのアクセスが不自由になりましたし、自分の大切な居場所を失った喪失感から脱せられずにいます。生協書籍部が休業したことで、和書を好条件で入手できる場がなくなりましたし、洋書についていえば、諸外国での感染拡大およびこれへの対策の影響から、たいへん入手しづらくなっています。街中に目を転じれば、新刊書店も古書店も通常の営業をしておらず、展覧会も演奏会も開かれる見込みがない状況にあります。以前の生活では、これらの場で頭や心のバランスをとっていましたもので、今後いかに自己を保っていくべきか、その手立てをまだ見出せずにいます。(もちろん、各所のスタッフの安全を考えるに、閉鎖・休業はやむを得ない措置だと理解しています。) 法律学の業界の常として、博士論文は 3 年では到底書き終えられませんから、もとより長期戦を覚悟していました。しかし、このような状況が今後も延々続いた場合、その「長期戦」がいったいどれほどになってしまうのか、不安を抑えられずにいます。さらに、その先のポストは、その先の就職は、と思いを巡らせるほど、不安のみが募ってしまいます。しかしながら、だからといって毎日を無為に過ごすわけにはいかないとも思っています。人類社会は COVID-19 との闘いが終わった後も続いていく (と信じています) のですから、数十年後、百年以上後の世界のためにも、学問の営みを止めることがあってはなりません。どんなに困難な時代にあっても学究を続けて次世代へ継承してきた先人たちに倣い、この厳しい状況の中でも、未来への希望を胸に、最善を尽くしていくつもりです。(国立大 D3・一人暮らし)

以上